



学校だより はんたましい



新年あけまして おめでとうございませす



二学期後半スタート！チャレンジの年に
ご家族おそろいでさわやかな新年を迎えられた事と
思います。旧年中は、本校の学校教育活動に多大な御理
解と御協力を賜り誠に感謝申し上げます。

去年は、運動会、坂田金太郎祭り、学習発表会、PIA
行事等に多数足をお運びいただき、多くの励ましのお
言葉を頂きありがとうございました。坂田小学校の教
育を温かく見守りご協力頂いたことに深く感謝致しま
す。本年も教職員一同心ひとつに頑張つて参ります。

先週の一月五日から二学期後半が始まりました。子
どもたちの元気な笑顔が校庭に戻り学校も活気づいて
きました。二学期後半は、主に学習内容のまとめ、学年
のまとめにもなります。今年も昨年同様、保護者の皆
様、地域の皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い致し
ます。さて、新しい年を迎え、新年の抱負を胸に元氣よ
く登校してきた子どもたち。一年の初めにあたり子ど
もたちが、夢や希望・目標を実現するために具体的な行
動を継続していくことを大切にしてほしいと願いま
す。子どもたちが、自分の良さに気づき、可能性を信
じ、自分の達成すべき目標に向かって努力できるよう
精一杯応援していきたいと思ひます。

心こめて年試みる



「一日の計は朝にあり。一年の計は元旦にあり。
一生の計は少壮にあり（若くて意気盛んなとき）」
という言葉にもあるように年初めの計画は、その年を
左右する大事な基盤になります。また、「心をこめて年
試みる」という言葉もあります。今年はこの年にする
という目標を立て毎日を試みるという意味
です。

私たち一人一人も一年の計画を立てて、
日々目標を達成できるように努めていきたい
と思います。



坂田っ子が目指す児童像

二学期後半は、授業日数（登校日数）が、48日の短い学期です。
学習の総まとめや進級、進学準備をする大切な学期ですが、一月は
「行く」、二月は「逃げる」、三月は「去る」と言われるように時はあ
っという間に過ぎ去って終わってしまいます。三月は、卒業式、修了
式の大きな行事も計画しており、一日一日の時間がこれまでも増し
て貴重な時間となってきます。

学校では、二学期後半のめあてを持たせるとともに、次のような子
どもを育てることを目標に教育活動を進めていきたいと思ひます。

- 1 落ち着いて生活ができる子
 - ◎ 早寝、早起きで早めの登校で時間にゆとりを持つことができる。
- 2 思いやりがあり、明るい対応ができる子
 - ◎ 進んであいさつをする。しっかり返事する。
きれいな言葉遣い
 - ◎ 朝のボランティア活動へ参加する。
 - ◎ 相手に親切にする。協力する。感謝する。
- 3 着実に歩み、努力する子
 - ◎ 話をしっかり聞く。学習用具の準備ができる。
 - ◎ 最後まで粘り強く課題に取り組む。（家庭学習、読書等）



わたしたちにとって敵とは、
「ためらい」です。自分でこんな人間
だと思ってしまうと、それだけの人間
にしかたれないのです。

ヘレン・ケラー：社会福祉事業
ヘレンケラーが、病気で聴覚と視覚を失ったのは
まだ2歳にもならないときでした。物心がつくか
つかないかのうちに、まったく音と光のない世界
へと入ったのです。何も見えず、何も聞こえず、
何も話せない。三重苦という大変な障害です。
彼女の心の中には、いつも「ためらい」があつた
と思ひます。自分は、どうせ目が見えないから、
何もできない人間なのではないか。どうせ耳が聞
こえないから、価値のない人間なのではないか。
どうせ話ができないから、役に立てない人間では
ないか。しかし、彼女は、大変な努力を重ねて、
その「ためらい」に打ち勝ちました。聴覚・視覚
障害者として、大学で教育を受け、講演や著述等
で社会福祉に尽くし、世界中の人々に夢や希望を
与える人になったのです。

子どもは親から学び、親は子どもから学ぶ

ドロシーローノルト「いちばん大切なこと」より

子どもは親をお手本にして育ちます。子どもは生まれた瞬間から、それどころか生まれる前でさえ、私たち親から学
びとっているのです。子どもの手本である以上、最良の自分を子どもに見せてあげたいものです。私たち親は、子ども
からも学ぶことができます。親の愛は、3つの柱で支えられています。子どもを受け入れ、認め、思いやるという3つ
の柱です。自分を無条件に受け入れ、良いところを受け入れ、深く思う親の愛に育まれて、子どもは自分が好きになり、
人を愛することのできる人間になっていきます。そして、親もまた、子どもを愛し、子どもを育て学ぶ中で、人生の喜
びを知るのです。子どもは、私たち親に 幸せとは何かを誰よりも深く教えてくれるのです。

子どもが親から学ぶことは、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、
基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけることが挙げられます。子どもたちは成長段階により、
物事を吸収する量が変わってきます。子どもたちから受ける刺激は、脳の活性化に繋がっているのです。また、子ども
たちの行動の一つひとつは、とても興味深いものです。何をどのように感じ、表現しているのかを見ていると、子ども
の個性がわかります。子どもたちは、生活する環境によって子ども自身が形成されていきます。その成長を見ている親
御さんは、子どもさんの生き方に学ぶ点が多くあります。日常という環境は、親御さんが作り上げている場面が多いこ
と。それは親御さん中心として生活は進むからです。子どもたちが、どのような行動をとるかはこれからの生活が参考
にもなることが多いものです。大人が、子どもから学ぶという姿勢を持つことは大切なことです。